

スイカ

芝山経済センター 営農指導担当 福岡 龍也

農業 テクニカル ダイアリー

落花生

営農部営農振興課 営農指導員 石井 枝里奈

栽培のポイント

●**畑の準備・播種**(5月中下旬)
元肥に落花生専用(5・15・20)を10ア当たり60キ、苦土石灰を10ア当たり60キ80キ施用します。準備ができたなら、ベッドを作ってマルチ(2条用、畝間130キ、株間30キ)を敷き、1〜2粒ずつ播種します。鳥害対策として、播種前にキヒゲンR2フロアブルで種子消毒を行います。

病害虫対策

表①を参考に、薬剤防除を行うてください。白絹病や茎腐病の被害株は早めに抜き取りましょう。

マルチ除去(6月下旬)

収量・品質が低下しないよう、開花期(圃場の50%の株に1輪でも花が咲き始めるころ)の7〜10日後にマルチを除去し、雨水や灌水した水が浸透するようにしましょう。

中耕(6月下旬〜7月下旬)

開花初期から1〜2回、中耕を行います。子房柄が地中に侵入しやすくなり、収量を上げる

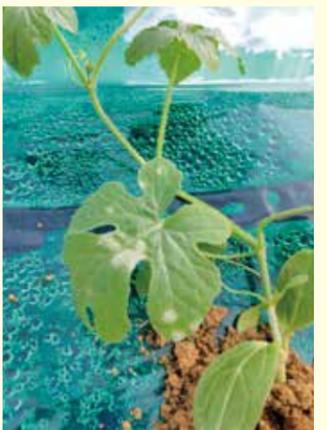
スイカの病害虫対策

近年は4月以降に気温が上昇する傾向にあり、特にアブラムシ、ハダニ、アザミウマ類などの害虫の発生が増えています。また、うどんこ病のような、やや高温下で発生する病気も増えてきています。今回は、今後の病害虫対策をお伝えします。

うどんこ病

うどんこ病の初期症状として、葉に白い粉状のカビが発生しますが、症状が少し見える程度でも菌は広がっています。激発状態が続くと、葉の縁から褐変して葉が枯れ上がります。特に、一昨年は育苗期からうどんこ病の発生が見られ、定植後ではさらに被害が拡大して作柄に大きく影響し、減収となった圃場も見られました。

圃場での防除では拡大を止めることは困難であるため、育苗期からの発生前の予防が重要となります。本年も管内で定植直後に発生が報告されているため、特に注意しましょう(写真②)。



写真② スイカに発生したうどんこ病

効果があります。除草も兼ねて7月下旬までに行いましょう。

●**灌水**(7月下旬〜8月中旬)
結実〜蒴肥大期に干ばつ害を受けると、子実の肥大が停止して空蒴が発生し、収量が大きく低下します。畑が乾いているときは、1回当たり30〜40ミ灌水してください。

試し掘り(9月中旬)

収穫が遅れると落ち蒴が多くなったり、食味が低下したりするので、必ず試し掘りをして収穫適期(表②参照)を逃さないようにしましょう。

乾燥(9月中旬)

掘り取り後は5〜7日間地干しします。その後、風通しの良い場所です野積みし、ブルーシートや稲わら等で覆います。近年の秋の台風や長雨の影響による品質低下を防ぐため、平積みにもトンネルを掛ける乾燥方法もあります。十分に乾燥させた後、脱穀・調整してください。

シーダーマルチのご紹介

シーダーマルチ(写真①)を使用すると、ベッド作り・播種有

近年、購入苗が増加傾向にあります。購入苗の場合は、定植前にベルフトフロアブルなどの薬剤を散布してください。育苗期から徹底した防除を行い、圃場に健全な苗を定植しましょう。

害虫対策

ハダニ、アブラムシ類に加え、アザミウマ類の発生も多く見られます。これらは後作のトマト等へ飛来し影響を及ぼすため、防除を徹底しましょう。

褐色腐敗病・炭そ病

褐色腐敗病や炭そ病は6〜7月の高温・多湿期においての条件下で多く発生する病気です。これらの病気は圃場ではもちろん、収穫後にも発生するケースが多いため、特に注意が必要です。発生が見られる前に防除を行いましょう。

表① 落花生に登録のある薬剤

薬剤名	対象病害虫	使用時期	希釈倍率・使用量	使用回数
フォース粒剤	コガネムシ類幼虫	播種時	9kg/10アール	1回
トクチオン細粒剤F	ヒョウタンゾウムシ類	収穫60日前まで	9kg/10アール	2回以内
トップジンM水和剤	褐斑病、茎腐病	収穫7日前まで	1500倍	4回以内
フロンサイド粉剤	白絹病	収穫45日前まで	20kg/10アール	1回

孔マルチの被覆・覆土・鎮圧の作業が一工程で済むため、播種作業の労力軽減につながります。JA全農ちばでは新規栽培や規模拡大に取り組み生産者に対し、このシーダーマルチを無償で貸し出ししています。

表② 収穫適期の目安

開花期後日数	品種名
70日	郷の香(ゆで豆用)
80日	ナカテユタカ
	Qなっつ
90日	おおまさり(ゆで豆用)
	おおまさりネオ(ゆで豆用)
95日	千葉半立



写真① シーダーマルチ

※貸し出し機械は数に限りがあります。また、貸し出しには一定の要件があるため、利用をご希望の方は早めに営農部営農振興課(電話番号:0475-821353)までお問い合わせください。

表③ スイカに登録のある薬剤

生育時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
育苗期	うどんこ病・つる枯病・菌核病	ベルフトフロアブル	1000倍	収穫前日まで	4回以内
	アブラムシ類	ウララDF	2000倍	収穫前日まで	2回以内
つる引き後	菌核病・つる枯病	スミレックス水和剤	1000倍	収穫7日前まで	5回以内
	うどんこ病	ショウチノスケフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内
		プロパティフロアブル	3000〜4000倍	収穫前日まで	3回以内
着果後	アブラムシ類・アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	収穫3日前まで	3回以内
	うどんこ病	ショウチノスケフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内
玉直し後	アブラムシ類・アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	収穫3日前まで	3回以内
	うどんこ病・つる枯病・炭そ病	シグナムWDG	1500倍	収穫前日まで	3回以内
肥大期	ハダニ類	ダニオーテフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内
	褐色腐敗病	レーバフロアブル	2000倍	収穫前日まで	2回以内